

参考資料

- (資料1) データで見る丹波地域
- (資料2) 「美しい兵庫指標」県民意識調査結果
- (資料3) 丹波地域の将来像実現に向けた提案・意見
- (資料4) 丹波の森夢会議の概要
- (資料5) 丹波地域ビジョンの見直しに係るアンケート調査結果
- (資料6) たんば夢フォーラムの概要
- (資料7) 丹波地域ビジョン検討委員会名簿・検討経過
- (資料8) 丹波の森宣言、丹波の森構想、丹波の森構想評価・検証報告

データで見る丹波地域

1 地 勢

丹波地域は兵庫県の中東部に位置し、篠山市、丹波市の2市からなります。

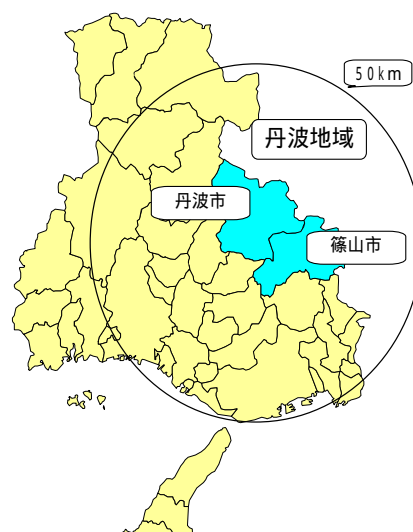
総面積は870.89 km²で、県総面積の10.4%を占め、北は但馬、東は京都府の丹波、西は北播磨、南は阪神北及び大阪府豊能郡に接しています。神戸からは約50 km、大阪・京都からは約60 kmと京阪神大都市圏に近接して位置していることも特徴です。

また、恐竜や国内最古級の哺乳類化石が発掘された篠山層群が両市にまたがって広がっているほか、日本海側と瀬戸内海側に水系を分ける日本一低い分水界が存在するなど特徴ある地勢となっています。

総面積（平成22年10月1日現在）

兵庫県	8,396.13 km ²	全県比率
丹波地域	870.89	10.4%
篠山市	377.61	4.5%
丹波市	493.28	5.9%

国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」



2 人 口

(1) 人口の推移（単位：千人）

区 分	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
篠山市	42	41	42	45	46	45	43
丹波市	73	74	73	74	73	71	68
計	115	115	115	119	119	116	111
(全県)	5,145	5,278	5,405	5,402	5,551	5,591	5,589
全県比率	2.2%	2.2%	2.1%	2.2%	2.1%	2.1%	2.0%

総務省統計局「国勢調査報告」(2010年(平成22年)は速報値)

(2) 世帯数の推移（単位：千世帯）

区 分	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
篠山市	11	12	12	13	14	15	15
丹波市	19	19	20	21	22	22	22
計	30	31	32	34	36	37	38
(全県)	1,592	1,666	1,792	1,872	2,041	2,146	2,255
全県比率	1.9%	1.9%	1.8%	1.8%	1.8%	1.7%	1.7%

総務省統計局「国勢調査報告」(2010年(平成22年)は速報値)

(3) 高齢化(65歳以上)率の推移(単位: % 各年2月現在)

区分	1990年 平成2年	1995年 平成7年	2000年 平成12年	2005年 平成17年	2010年 平成22年
篠山市	19.6	22.2	24.1	26.0	28.7
丹波市	18.5	21.4	24.0	25.9	28.5
計	18.9	21.7	24.0	25.9	28.6
(全県)	11.5	13.6	16.4	19.2	22.4

県情報事務センター「高齢者保健福祉関係資料」

(4) 合計特殊出生率の推移

区分	1990年 平成2年	1995年 平成7年	2000年 平成12年	2005年 平成17年
篠山市	1.78	1.50	1.59	1.31
丹波市	2.00	1.89	1.89	1.49
計	1.92	1.75	1.77	1.41
(全県)	1.53	1.41	1.38	1.25

1人の女性が一生の間に平均何人の子どもを産むかを示す数値。

県情報事務センター「厚生統計情報」

(5) 丹波地域の将来推計人口

人口(単位: 千人)

区分	2005年 平成17年	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 平成32年	2025年 平成37年	2030年 平成42年	2035年 平成47年	2040年 平成52年
篠山市	45	44	42	41	39	37	35	33
丹波市	71	68	66	63	60	57	54	51
計	116	112	108	104	99	94	89	84
(全県)	5,591	5,586	5,535	5,434	5,290	5,116	4,913	4,688
全県比率	2.1%	2.0%	2.0%	1.9%	1.9%	1.8%	1.8%	1.8%

平成20年5月 県企画県民部政策室推計(2005年(平成17年)は実績値)

生産年齢人口(15~64歳)比率(単位: %)

区分	2005年 平成17年	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 平成32年	2025年 平成37年	2030年 平成42年	2035年 平成47年	2040年 平成52年
丹波地域	59.0	58.3	55.9	53.9	52.8	52.3	52.0	50.7
(全県)	65.8	63.2	60.1	58.8	58.5	57.5	55.6	52.6

平成20年5月 県企画県民部政策室推計(2005年(平成17年)は実績値)

高齢化(65歳以上)率(単位: %)

区分	2005年 平成17年	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 平成32年	2025年 平成37年	2030年 平成42年	2035年 平成47年	2040年 平成52年
丹波地域	26.5	28.0	31.3	33.9	35.6	36.8	37.5	39.0
(全県)	19.9	23.2	27.4	29.7	31.1	32.7	34.8	38.1

平成20年5月 県企画県民部政策室推計(2005年(平成17年)は実績値)

3 地域産業

(1) 総生産額の推移(単位:億円 産業別の内訳を示すため、帰属利子等控除前)

一定期間内に地域内の経済部門の生産活動によって新たに付加された価格の評価額

区分	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
丹波地域	3,891	3,895	3,765	3,691
第1次産業	94(2.4%)	86(2.2%)	85(2.3%)	68(1.8%)
第2次産業	1,402(36.0%)	1,436(36.9%)	1,369(36.4%)	1,336(36.2%)
第3次産業	2,395(61.6%)	2,373(60.9%)	2,311(61.4%)	2,287(62.0%)
全県	201,284	199,135	195,556	197,698
全県比率	1.9%	2.0%	1.9%	1.9%

区分	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
丹波地域	3,682	3,756	3,756	3,524
第1次産業	75(2.0%)	68(1.8%)	68(1.8%)	71(2.0%)
第2次産業	1,310(35.6%)	1,338(35.6%)	1,317(35.1%)	1,101(31.2%)
第3次産業	2,297(62.4%)	2,350(62.6%)	2,371(63.1%)	2,352(66.8%)
全県	198,446	203,332	200,066	197,469
全県比率	1.9%	1.8%	1.9%	1.8%

県統計課「市町民経済計算」

(2) 製造品出荷額の推移(単位:億円)

その事業所の所有に属する原材料によって製造されたものの出荷額

区分	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
丹波地域	3,576	3,488	3,753	3,928
全県	131,213	124,588	123,454	129,452
全県比率	2.7%	2.8%	3.0%	3.0%

区分	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
丹波地域	4,138	4,255	4,668	4,609
全県	134,778	144,550	157,846	165,128
全県比率	3.1%	2.9%	3.0%	2.8%

県統計課「工業統計調査結果報告」

(3) 商品販売額の推移(単位:億円)

区分	平成14年	平成16年	平成19年
丹波地域	1,671	1,535	1,622
全県	131,776	129,147	132,655
全県比率	1.3%	1.2%	1.2%

県統計課「商業統計調査結果表」

(4) 農業産出額の推移 (単位：億円)

区 分	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
丹波地域	158	152	153	137	140	134
全 県	1,636	1,662	1,649	1,515	1,501	1,462
対全県比	9.7%	9.1%	9.3%	9.0%	9.3%	9.2%

近畿農政局兵庫農政事務所「兵庫農林水産統計年報」

4 観光

(1) 観光客入込数の推移 (単位：千人)

区 分	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年
篠山市	2,423	3,070	3,024	3,197	3,133
丹波市	2,007	2,007	1,969	1,938	2,147
計	4,430	5,077	4,993	5,135	5,280
(全県)	119,178	123,357	121,675	124,035	126,681
全県比率	3.7%	4.1%	4.1%	4.1%	4.2%

区 分	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
篠山市	3,093	2,906	2,878	2,783
丹波市	2,280	2,392	2,260	2,222
計	5,373	5,298	5,138	5,005
(全県)	133,276	132,131	134,605	136,087
全県比率	4.0%	4.0%	3.8%	3.7%

県観光交流課「兵庫県観光客動態調査報告書」

5 農林業の状況

(1) 総農家数、農業従事者数 (単位：戸、人)

農業従事者：満 15 歳以上の世帯員のうち、調査期日前 1 年間に自営農業に従事した者

区 分		平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
総農家数	丹波地域	12,430	11,749	10,867
	全 県	114,523	104,990	95,499
	全県比率	10.9%	11.2%	11.4%
農業従事者数	丹波地域	26,817	22,563	19,465
	15～39 歳	4,575(17.1%)	3,172(14.1%)	-
	40～59 歳	9,884(36.8%)	7,910(35.0%)	-
	60～ 歳	12,358(46.1%)	11,481(50.9%)	-
	全 県	223,252	180,730	154,101
	全県比率	12.0%	12.5%	12.6%

農林水産省「農林業センサス(2000年、2005年、2010年)」

(2) 民有林面積 (単位: ha)

区 分	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
丹波地域	64,041	64,050	64,036	64,040	64,038	64,045
全 県	531,728	531,707	531,706	531,759	531,347	531,179
全県比率	12.0%	12.0%	12.0%	12.0%	12.1%	12.1%

県林務課「兵庫県林業統計書」

(3) 丹波地域の主な農産物の作付面積 (単位: ha)

区 分	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
黒 大 豆	515	586	598	608	641	675
黒大豆枝豆	159	104	139	145	128	145
小 豆	210	208	214	300	331	337
山 の 芋	112	106	105	91	81	74

県丹波農林振興事務所調べ

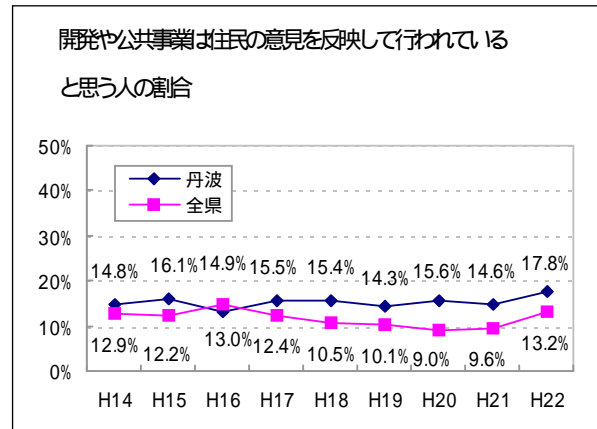
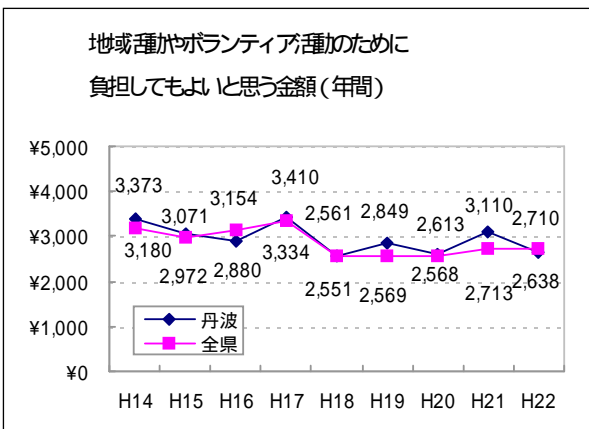
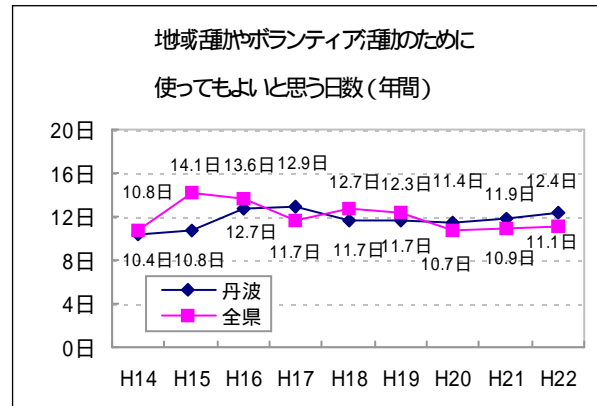
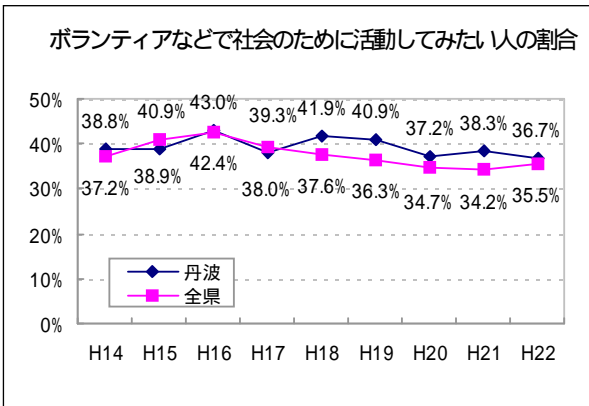
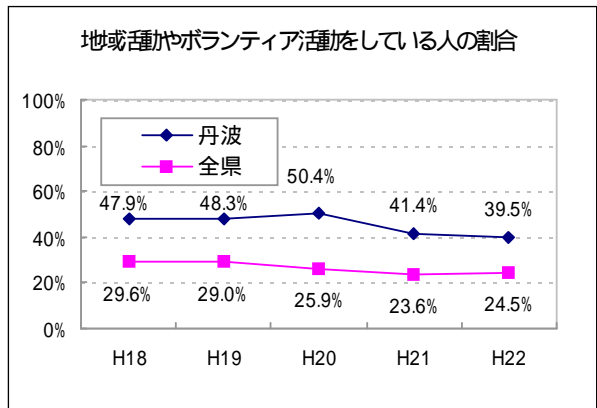
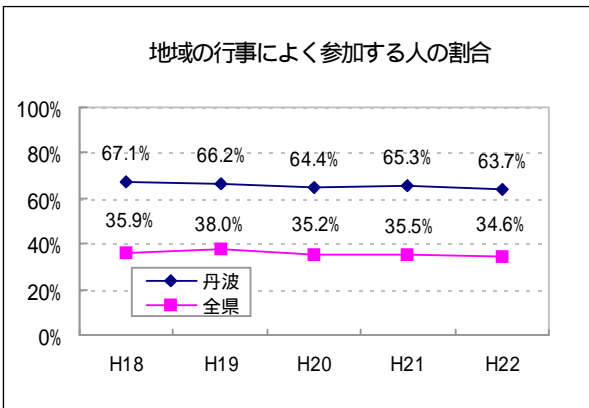
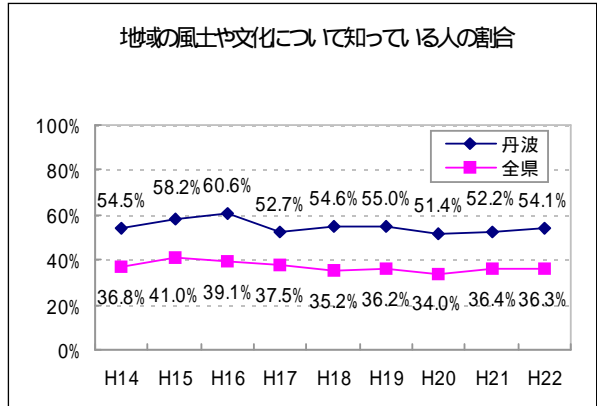
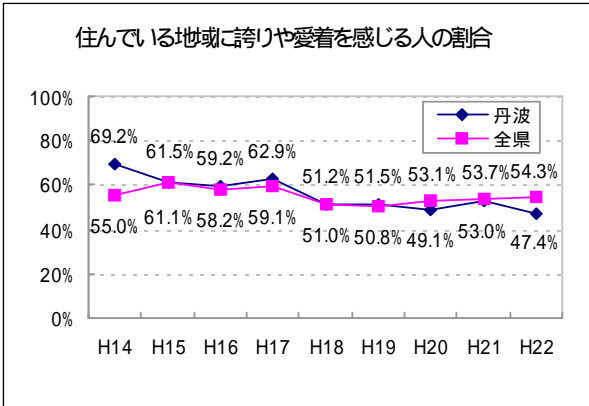
(4) 丹波産素材生産量 (単位: 千 m^3)

平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
13	10	13	15	20	15

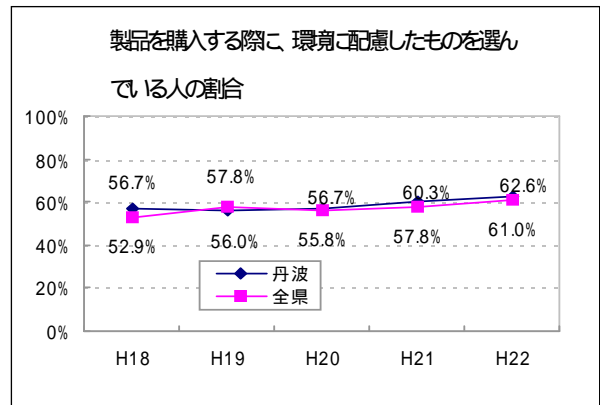
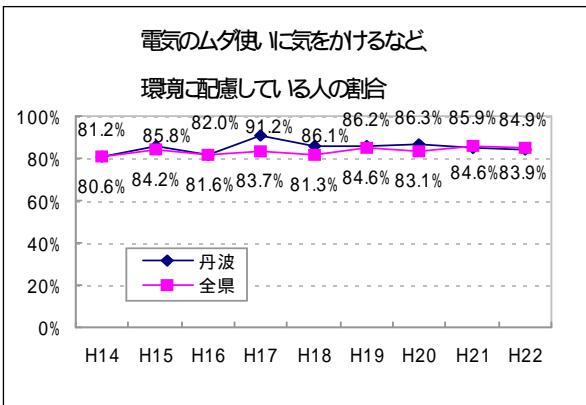
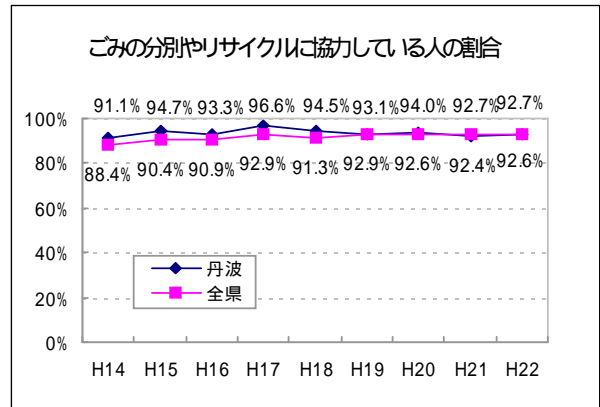
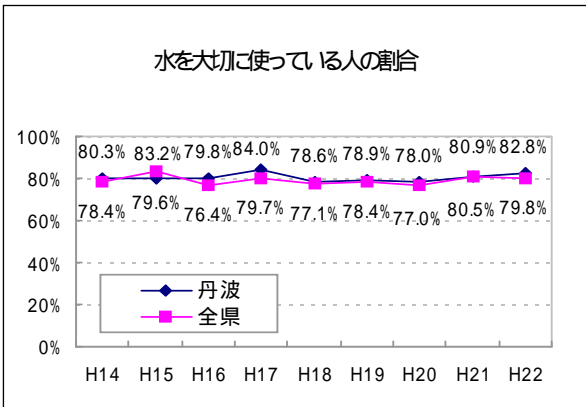
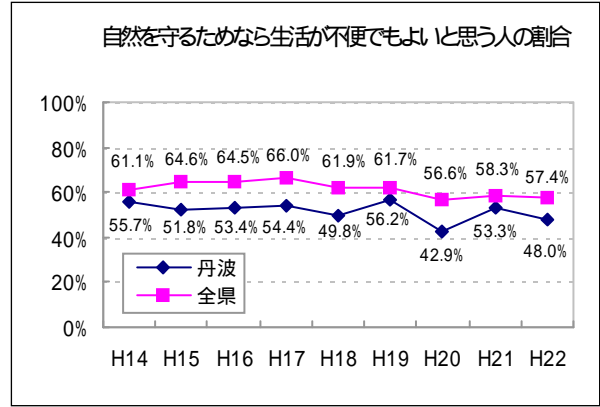
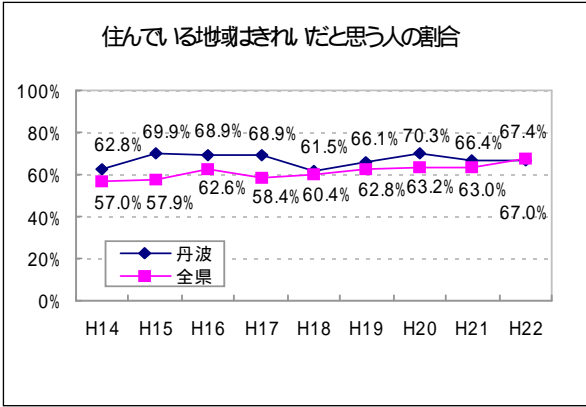
県林務課「兵庫県林業統計書」

「美しい兵庫指標」県民意識調査結果

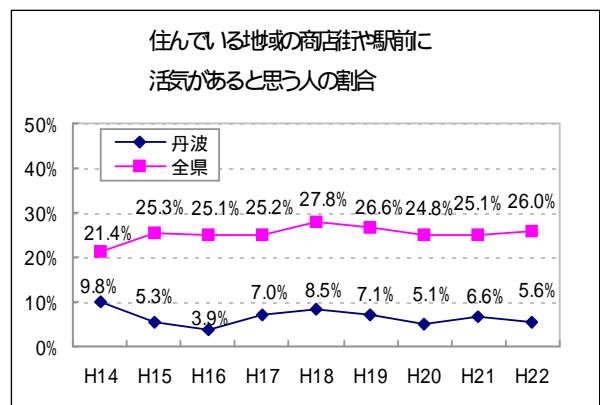
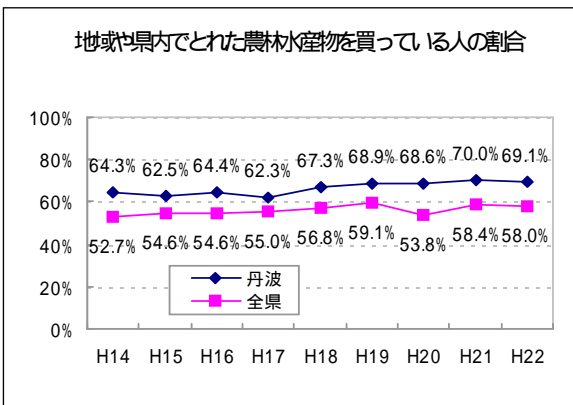
将来像 1 みんなで創る“自立のたんば”

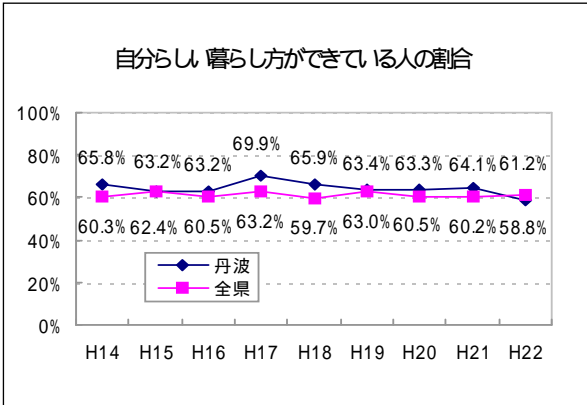
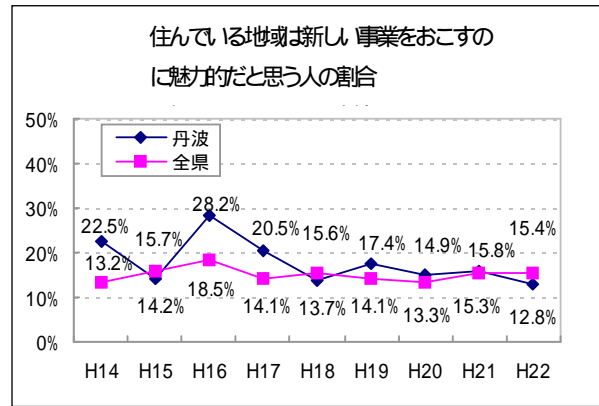
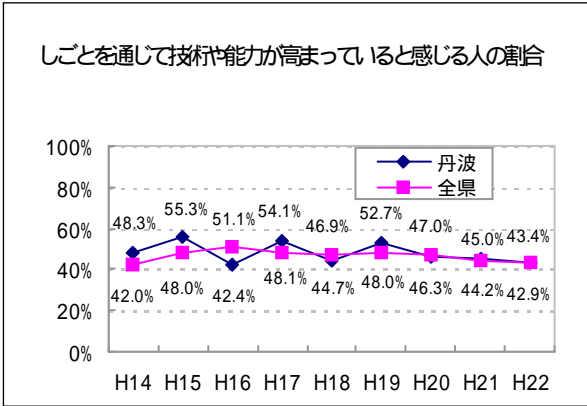
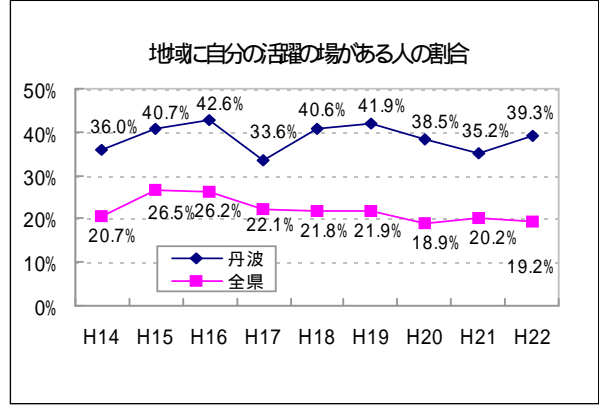
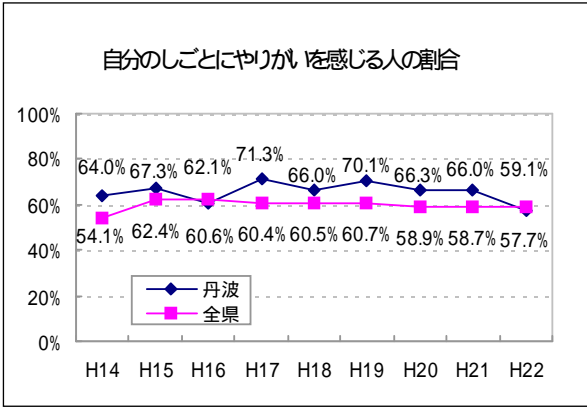


将来像2 都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”

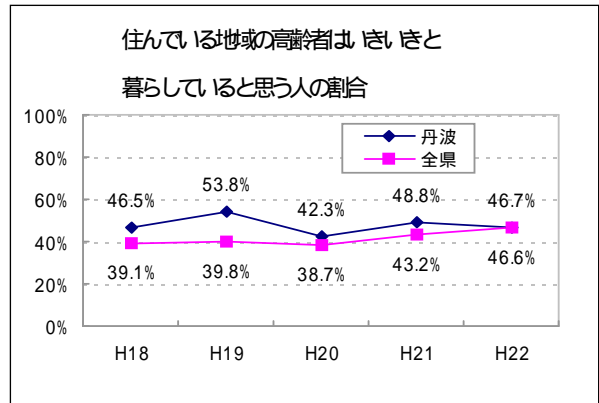
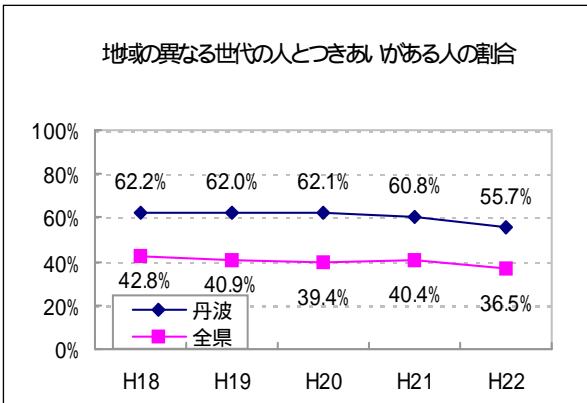


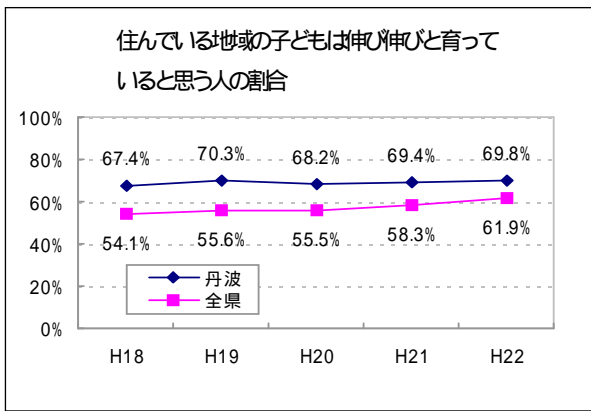
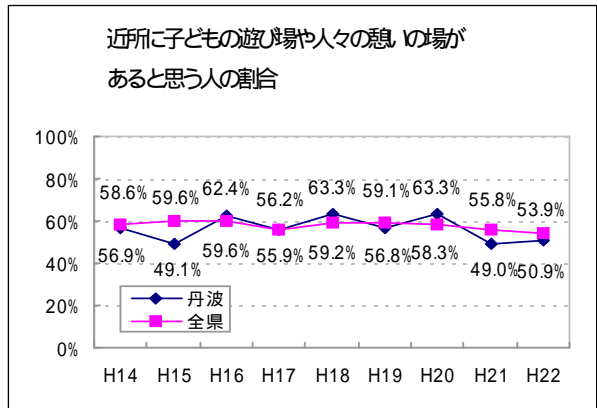
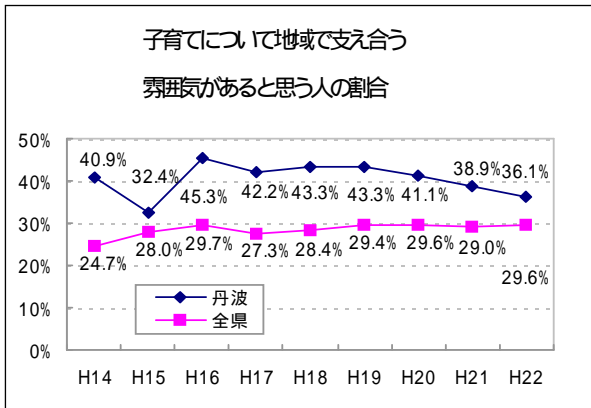
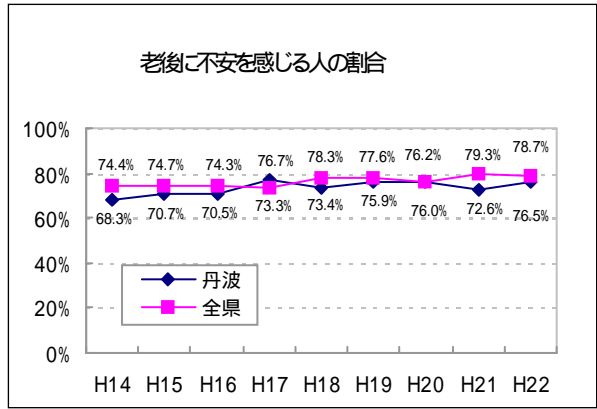
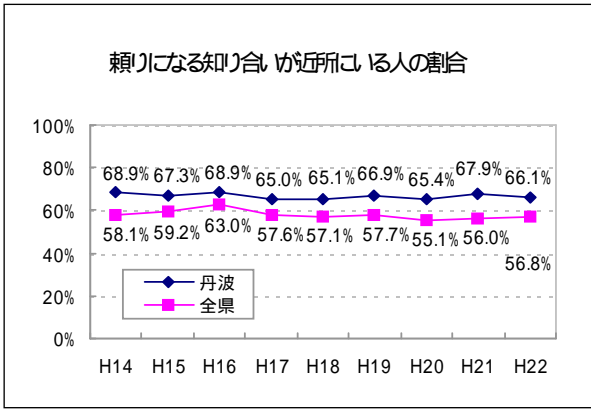
将来像3 やりがいを実感できる“元気なたんば”



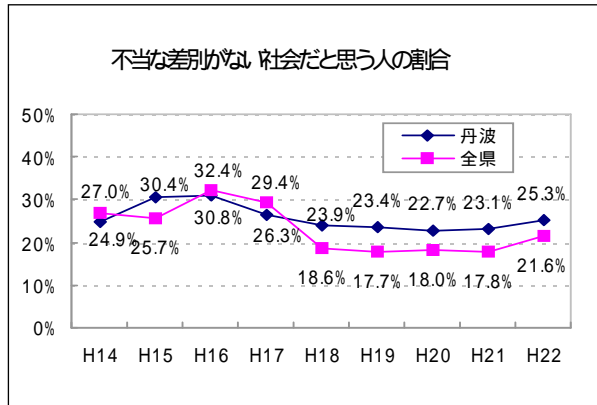
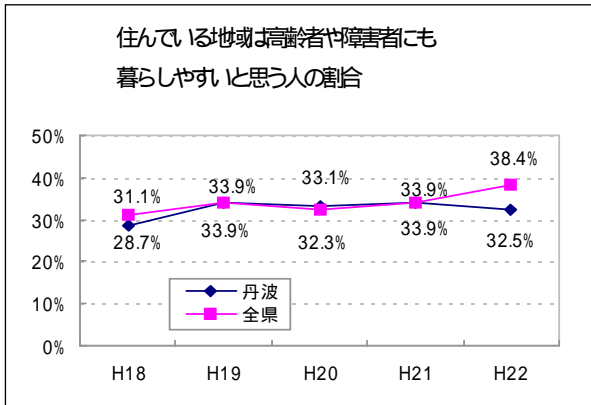


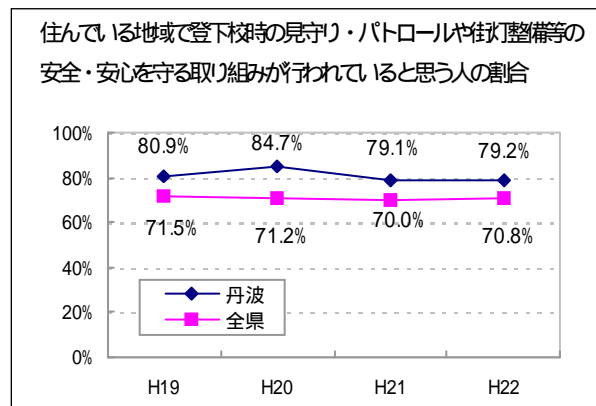
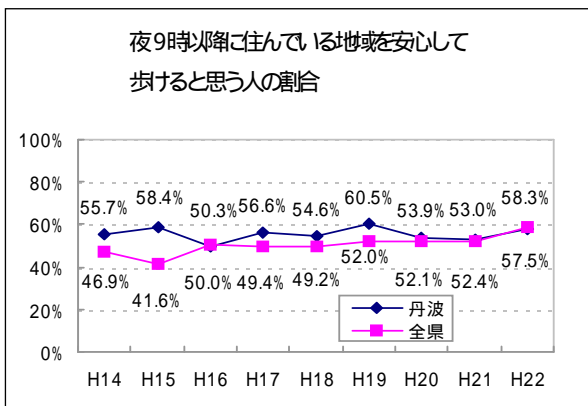
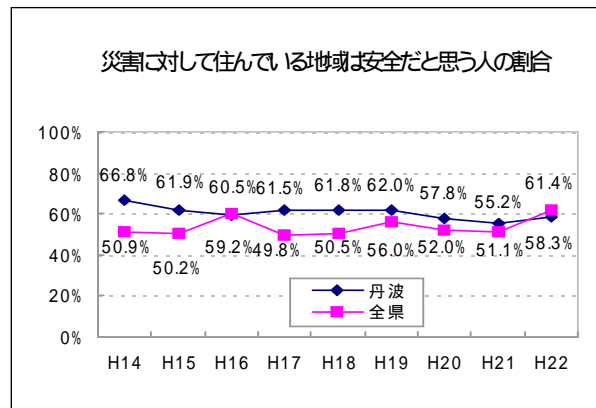
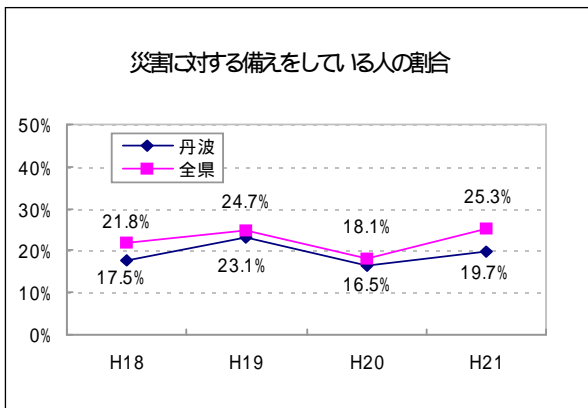
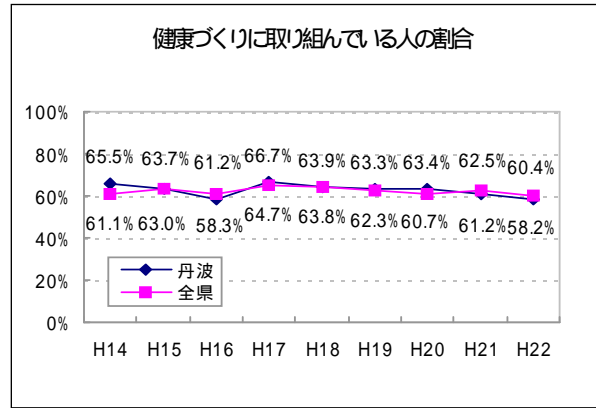
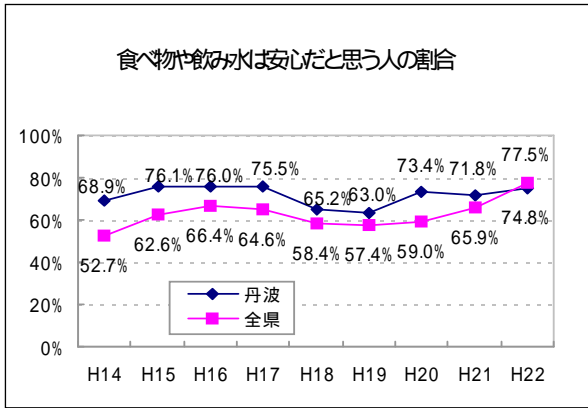
将来像 4 多世代が支え合う“絆のたんば”





将来像5 とともに暮らす“安全安心なたんば”





【参考】「美しい兵庫指標」県民意識調査について

- 1 調査の趣旨
地域社会の様々な課題等に関する県民の意識や行動を調査し、ビジョンの実現状況の把握と今後の政策立案に反映させる
- 2 調査開始年度
平成 14 年度から毎年度
- 3 調査対象者
県内に居住する満 20 歳以上の男女個人
- 4 調査対象数
5, 0 0 0 人 (各地域 500 人 × 10 地域)

丹波地域の将来像実現に向けた提案・意見

丹波地域ビジョンの点検・見直しにあたっては、丹波の森夢会議やフォーラム、ヒアリング等において、地域住民の皆さん、活動団体の皆さんから、将来像の実現に向けた多数の提案・意見をいただきました。

〔凡例〕

：丹波の森夢会議、：団体ヒアリング、：たんば夢フォーラム、
：ビジョン検討委員会、：委員アンケート、：評価・検証報告

- 将来像1 - みんなで創る“自立のたんば”

地域の魅力発掘と情報発信

- ・地域内で情報を共有する事が大切である。どこでどんな事をやっているか知らないことが多い。地域内発信はまだまだ工夫しフォローする必要がある。()
- ・地域への愛着というよりむしろ、誇りの復権をキーワードとすればどうか。()
- ・外からの視点、若者の視点で地域の資源を探していくことが大切である。()
- ・大学などの若者は新しい発想を持っており、地域に大きな刺激になるため、機会を捉えて自治会と大学との連携を推進していくべき。()
- ・都市間競争に負けない情報発信力を身につける必要があり、徳島県上勝町の「いろいろ事業」のように、マーケティング視点で情報を評価・加工し、ネットワーク上に投じる力を持つ人を育成していくべきである。()
- ・情報化時代のコミュニティを設計できる人材の交流組織を立ち上げ、メーリングリストで日頃から情報交換できる体制と意見交換する場をつくる。()

地域を担う人材の育成

- ・ボランティアや地域づくり活動に取り組む人へのノウハウの提供とバックアップの仕組みづくりが必要である。()
- ・まちづくりは、自治会ではなくまちづくり協議会が担うようになっているが、リーダーの育成と専門性を持つ団体との連携が必要である。()
- ・地域づくりのトップの育成が重要。長期的にみたリーダー育成やリーダーシップが発揮できるような場づくりを行っていく。()
- ・地域を支える若者や子どもが自発的に参加していくような取組が大切である。()

地域づくりへの住民参加の推進

- ・住民参画の空気を普遍化させていくことが、今後の地域づくりに重要である。()
- ・地域づくりへの住民参加では、地域のみんが提案できる仕組みが必要ではないか。()
- ・小学校区では子育てや青少年の育成などに取り組むべきである。小規模な集落では、難しい問題なので、周辺の集落が支援していく形がよい。()
- ・それぞれの自治会の取組を、校区の集まりで発表させ、参考にしていけばよい。()
- ・各地域団体の長、構成員は短い単位(1年等)で交替するので、知識や経験の蓄積が難しい問題がある。()
- ・自治会役員の負担を減らし、若い役員を増やしていく取組も必要では。()

地域で活動する団体の連携推進

- ・デカンショ祭、陶器まつり、シャクナゲまつり、茶まつり等が長続きしているのは、地域

の住民と連携しているからである。()

- ・地域で活動している団体は、それぞれ独自で活動していて、連携や役割分担ができていない。横の繋がりを確認するための協議会やネットワークが必要ではないか。()
- ・地域の各グループ同士やリーダー同士の交流により、力を倍増させることが必要。()
- ・ビジョン委員は地域活動のリーダー的な役割とともに、情報提供・情報収集、団体同士を結ぶ役割も果たしていく必要がある。()

- 将来像 2 - 都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”

森・川・里の豊かな自然の保全と活用

- ・人と森の関わりの中で、生物多様性が出てきている。丹波地域は、これからの森林との関わり方を打ち出せる地域である。()
- ・森林整備や里の保全に都市住民を参画させる。()
- ・お金にならないから山に入らないというのではなく、山に入っていくきっかけを作っていくべき。()
- ・雑木林を手入れしている老人が、子どもたちに教えたいたことがたくさんあるという。高齢者の技術を活用したり、交流できる場があり、それが収入に繋がる仕組みを作り出すことが大切である。()
- ・日役 = しんどいものでなく、社会貢献・環境保全活動という大変重要なことをやっているということを地域で共有し、子どもや若者たちが自発的に参加するような意識改革をしていく。()
- ・子どもがもっと山に入れば地域への愛着が高まる。若者定着のポイントでもある。()
- ・環境意識の高まりに合わせて、地域の森林と市民との関係を理解するために必要な情報を発信することが必要である。()

環境に優しい地域づくりの推進

- ・子どもや若者たちに、太陽エネルギーなどの自然エネルギーについて勉強させていくことが大切である。()
- ・地元産の木材等を使った住宅建築で、循環型社会の形成を進めていく。()
- ・バイオマスでは入口と出口の機能をしっかり持たせなくてはならない。それを楽しく考える。丹波地域はバイオマスの宝庫である。()

環境学習フィールドづくり

- ・管内には多様な自然系サークルがあるが、それぞれが独自に活動している。調査・研究等をより進めるためには、これらの連携が必要である。()
- ・恐竜化石は、観光だけでなく環境学習資源として高い価値がある。()
- ・子どもの頃は山へ連れて行かれ、薪取りや堆肥づくりのための落ち葉集めをやらされていた。環境学習と山仕事を結びつけていく。山仕事こそ本物の環境学習である。()
- ・子どもの視点でまちを見てもらい、提案をしてもらう「風景学習プログラム」を地元の小学校で行ったところ、良い意見が引き出せた。住民が身近な地域のことを知らない。地元を知るためにまち歩きをすることも良いと思う。()

美しい景観づくりの推進

- ・丹波地域らしい風景の継承は、その地で業（産業や農業）を行う生活者によって支えら

れており、風景の維持には多様な担い手づくりが重要である。()

- ・景観の維持では、農業や草刈りなど日々の活動の占める役割が大きい。()
- ・1人500円程度を負担し、もみじを植えて地域を美化する「マイもみじ」を地域へ提案している。()
- ・景観美化のため、集落ごとに花を植え、いつでも地域のどこかの集落で花が咲いているようにすればよいと思う。()

都市との多彩な交流の推進

- ・里山案内人グループを作り交流を図る。()
- ・都会の人と丹波地域の人との間の地域感のギャップがある。これを共有できないか。()
- ・おさん茂兵衛などは、難しい理論よりも、わかりやすい実践で交流・理解が進むという例。生活者との格差を崩すきっかけは都市住民の外からの視点と、子どもたちの視点ではないか。()
- ・都市住民との交流を考えているが情報発信が課題。都市住民と地元をつなぐコーディネート団体等があればよい。()
- ・農家・農業者には、交流のきっかけ・スタート段階でのノウハウがないのが課題となっている。()
- ・空き空間があれば活用できる空間が広がる、という逆転の発想が必要である。()
- ・廃校が増えてきていることだし、遊休施設の活用は大事な発想。ドイツでは、つぶれかけたガスタンクを学生寮にしたり、廃炭坑の建物を改修して活用する例がある。県民緑税での校庭緑化を丹波地域に導入し、最新式の芝生のサッカー場を造るとか・・・。()

丹波の田舎暮らし情報の発信

- ・交流 半定住 定住 と段階的な移住支援を行っていく。()
- ・自給自足のメッカとして丹波地域の暮らしをPRしていくべきである。()
- ・お年寄りの夫婦をどう誘致してくるか。今後の地域づくりの方策として重要。()
- ・丹波地域で暮らすこと自体が地球に優しくったり、本当に充実した幸せな時間を過ごすことになる。()
- ・急増する空き家をどう管理していくか。個人での管理は難しく、地域での管理が必要(所有者、自治会との話し合い等、住民の協力が必要。世代を超えた交流。)。篠山市丸山地区では空き家に公共性を持たせ(無償提供) 地域での運営へと変えていった。()
- ・自然あふれる丹波地域は健康の面からも優れた地域であり、健康・福祉・介護の取組を情報発信し、移住人口の増加を進めてはどうか。()

- 将来像3 - やりがいを実感できる“元気なたんば”

地域の産業をリードする農林業の振興

- ・丹波地域にはブランド力があるので、農産物や加工品の開発にも、B級品を利用していくこともできる。()
- ・キャッチフレーズを考えたり、素敵なPR方法で宣伝することで丹波地域の特産物がもっと知られていく。()

- ・安全性を追うことも良いが、営みとして継続できる農業の確立を。新しいブランドの確立、販売・加工も含めた6次産業化、丹波という地域や安全性を評価してくれる販路の確立などが課題。()
- ・食品加工業、サービス業側からの仕掛けもないと、農業の6次産業化は進まない。これをリードする仕組みや組織が必要。()
- ・新規就農者を支援する一方、既に機械等を持っているUターン者の支援も必要(むしろ生計を立てていきやすい)。()
- ・新規就農や森づくりなど、やる気のあるU・Iターン者を受け入れ、地域の中心となってもらおう。()
- ・地産地消のための仕組みづくりが重要である。()
- ・新たに農業団地を造り、移住者を増やしていく。農機具は共同で使用し、勉強会も開催する。()
- ・「農業では食べられない」というのではなく、自分なりの暮らしへのこだわり、新しい価値観を子どもの頃から育てていく。()
- ・丹波地域に多くある針葉樹(スギ、ヒノキ)を森林ビジネスに活用して、学校の生徒机の木製化を推進してはどうか。()
- ・行政が率先して県産間伐材を使用し、地域に広げていく。()

商店街の活性化・ものづくり産業の振興

- ・丹波地域の特産品(ブランド)を活用できる企業を誘致していくべきである。()
- ・空き家を改装し、観光客に対して特産品を提供する事業展開があれば良い。()
- ・若者が長期的に「ものづくり」に取り組むことで、地元に着定できないか。()
- ・イベントに磨きをかけ、地域間競争に勝ち残る。「ササヤマルシェ」、「まちなみアートフェスティバル」は新たに若い人をひきつけた。()
- ・地域の魅力を組み合わせた商品開発を行っていくべきである(立杭焼で「ちーたん」のマグカップをつくるなど)。()

丹波の魅力を活かしたツーリズムの推進

- ・丹波地域らしい観光は何かを考えるべき。タイプとしては、四季通年にわたって来てもらえるような観光が必要だと思う。()
- ・広域ネットワークによる利便性を視野に入れて、京都丹波との連携を進めていくべきである。()
- ・ブランド農産物、地域の風物詩との複合化による観光を推進していく。()
- ・丹波地域の魅力の発掘は進んでいるので、それと併せてその先の「地域みがき」をしていく段階だと思う。()
- ・「近未来を見据えた丹波地域のブランド化戦略」をどうするか。これまでの、田舎・自然・デカンショ・黒豆から、家族・なりわい・生き様といった情緒的なもの、心のやすらぎへと魅力がシフトしてきている。これらをどうブランド化するかについてしっかり話をしていくべきである。同じツーリズムでも、他地域との区別を図っていく。()
- ・観光において、「体験経済(Experienced Economy)」の視点が大事。1、2回来てくれる「リピーター」、3回、4回来てくれる「支援者」、5回、6回と来てくれる「信者」

まで育てる。1回来ただけで、戻った先で悪評を垂れ流す「テロリスト」を作ってはいけない。()

地域の資源を活かした「しごと」の創出

- ・都市住民対象の田舎暮らし体験を、将来的にコミュニティビジネスにつなげられないか。消費者は、農産物は少しでも安いものを求めるが体験にはお金を惜しまない。()
- ・職業訓練所と連携するなど、人材育成と景観修復をつなぐ取組を展開していく。(篠山地区：歴史的建築物の修復技術に優れた左官職人が多い)()

地域づくり活動・文化活動の推進

- ・高齢者は若者とともに働くことで活力が出る。その場づくりが必要だと思う。()
- ・都会で仕事を辞めて丹波地域に来る人が持つ「夢」は大事である。()
- ・交流により丹波地域に興味を持つ人、社会貢献の場を丹波地域に求める30代の者も多くなっているので、このタイミングでの受け入れ体制づくりが課題だと思う。()
- ・丹波木綿、炭焼き、檜皮葺きなどの技術を伝承する人材を育成していく。()

若者の就労促進

- ・若者の定着が重要であるが、雇用の場が少ない。地域で若者の雇用を作り出す仕組みづくりを考えていく必要がある。()
- ・地域には優良な企業も多い。もっと若者に地元企業等をPRしていくべきである。()
- ・価値観も多様化している。農林業や伝統産業、地場産業など多様な生き方や働き方があることを知ってもらう取組が必要ではないか。有機農業の郷、ものづくりの郷として丹波地域をPRしていく。()

- 将来像4 - 多世代が支え合う“絆のたんば”

地域コミュニティの再生

- ・若者は個々の意識は強いが、町の中で一緒に暮らすという感覚が欠けている。()
- ・高齢者対象に実施されている「いきいきサロン」より、さらに子どもにも参加を呼びかけた「にこにこサロン」を地域に広げていけないか。()
- ・「若者塾・子ども塾」というように、地元行事への参加機会を増やす。()
- ・地域の若者に色々な経験を持った人が関わっていく。若いうちに社会活動の役割を任せるべき。()
- ・家庭での世代間コミュニケーションが少ない。世代交流のための行事に参加するのは高齢者ばかり。()
- ・丹波地域の退職者は非常に元気。高齢者と若者との連携が必要。高齢者に憩いの場を提供して、若者と勉強できるような場があればよい。()
- ・住民のネットワークが希薄化している。つなぐためには昔より大きなエネルギーが必要で、若い世代の意識をどう変えていくかが重要である。()

地域ぐるみでの子育て推進

- ・地域全体で子どもを育てる文化の復活が大切である。()
- ・自然環境を活かした子育てを推進していく(里山での保育、篠山チルドレンズミュージアムの活用など)。()
- ・子どもの頃から継続的に地域の行事・活動に参加していく。()
- ・ふるさとを体験することから始め、関わりを持てるようになるまで、18歳までの若者を地域で育てていく。()
- ・ひきこもりに対する社会の認識・理解にばらつきがある。一度ひきこもった若者が社会参加できるためのシステムや受け皿がない。()

高齢者が安心して暮らせる地域づくり

- ・丹波地域ならではの、医療の一手手前の健康管理体制づくりに取り組む。()
- ・地域コミュニティによる声掛け運動を通じた日々の安否確認を実施していく。()
- ・県下一である丹波地域の三世帯同居率をメリットとして生かす。()
- ・少子化の影響もあり一人暮らしが多い。週1回は公民館で昼の集いをして、食事をしながら交流を深めればどうかと考えている。()
- ・家庭や地域での高齢者の支え合いが難しくなっており、特に、小規模集落や限界集落では大きな問題に。出来るだけ家から出てもらい、隣近所と交流を持っていくことが重要。()
- ・高齢化が進む中で、豊かな自然に恵まれた丹波地域は、都会のシニア世代にとって、元気で楽しく暮らせる地域であり、豊かな老後が暮らせる地域でもある。健康・福祉・介護等の連携を強化して充実を図り、「健康・福祉・介護タウン」のモデル地域としてPRしていく。()
- ・平均年齢日本一の高齢者タウンを目指し、高齢者のノウハウや技術が活かされ、高齢者が住みやすく働きやすいまちづくりを推進し、他地域との差別化を図っていく。若者には「丹波地域の若者は都会に出て行って修業してこい。」と送り出し、将来、出ていった若者が帰ってきたいと思う、帰って来ることが出来るまちづくりを進めていく。()

高齢者が活躍できる地域づくり

- ・知と技に優れた高齢者を「地域のマイスター」として選んで地域に紹介していく。()
- ・独居老人や地域で活動できない高齢者が活躍できる場を作ることが必要(「ふれあいサロン」など)。()
- ・高齢者が活動をする際、送迎(交通手段の確保)の問題がネックとなっている。()

- 将来像5 - とともに暮らす“安全安心なたんば”

誰もが暮らしやすいユニバーサル社会の実現

- ・福祉ボランティアの不足が問題。ボランティア同士のネットワーク強化が必要である。()
- ・表面的には改善したように見えるが、自治会でもまだ男性が主導。女性は役を持ちながらも決定権がない。()
- ・自治会での女性の地位向上については、家庭の理解・支援が大事。また、地域の目(偏

見)を取り除くことが必要。()

- ・障害のある人や団体自身が意識を変えていかないと、障害者関係団体同士や自治会との連携は難しい。()
- ・ハード面以上に意識の面でのユニバーサル化は難しいと感じる。()
- ・ビジョン委員が行ったトイレマップづくり等は続けるべき。()

障害のある人も外国人も共に暮らす地域社会の実現

- ・障害のある人への理解を進めるためには、小さい頃からの教育が重要。()
- ・障害のある高齢者の実情が把握できていないという根本の問題もある。()
- ・在住外国人への行政の情報伝達は十分ではなく、税金の滞納や国保の取扱いなどで課題が多い。教育現場でも常に通訳を必要としており、また、医療関係、母子保健関係など命に関わる通訳はボランティア通訳者の精神的負担が大きい。()
- ・外国人に地域の住民としての自覚を持ってもらう取組が必要。自治会の祭りや花見、運動会、清掃活動への参加、役員を引き受けるなどの社会参加を進めていく。自治会・地域住民の意識改革と外国人の雇い主である企業の協力を得ていくことも重要。()

医療や健康、食の安全が確保された安心な地域の実現

- ・ヘルシーパークというように、公園で遊ぶことが健康づくりにつながっていく。()
- ・柏原病院の小児科を守る会の運動は進んでいるが、地元病院・開業医との連携で、総合病院の疲弊を防ぐこと等が必要である。()

災害に強く、犯罪のない地域づくりの推進

- ・暮らしの中で消費者被害を防ぐ取組が大切である(出前の寸劇による啓発活動など)。()
- ・有料サイトのトラブル、特に高齢者被害の増加が見られるので、インターネット関連のトラブルでは、IT関係のNPOとの連携が必要である。()

* ヒアリング団体一覧

分野	団体名
地域づくり まちづくり	篠山市自治会長会、丹波市自治会長会、NPO法人たんばぐみ NPO法人ほっと丹波、NPO法人情報社会生活研究所 NPO法人丹波まちづくりプロジェクト、(株)まちづくり柏原 福住地区まちづくり協議会、篠山青年会議所、丹波青年会議所
森 林	丹波市森林組合、NPO法人サウンドウッズ
環 境	篠山自然の会、丹波自然友の会 NPO法人バイオマスフォーラムたんば
商 工 業	篠山市商工会、丹波市商工会 丹波篠山観光協会、丹波市観光協会

農 業	丹波ささやま農業協同組合、丹波ひかみ農業協同組合 篠山市担い手農業者協議会、丹波大空の会 NPO法人いちじま丹波太郎
文 化	篠山市文化協会、丹波市音楽協会 おさん茂兵衛DEたんば実行委員会
青 少 年	丹波青少年本部、NPO法人結
高 齢 者	篠山市老人クラブ連合会、丹波市老人クラブ連合会 篠山市社会福祉協議会、丹波市社会福祉協議会
子 育 て	NPO法人Tプラス・ファミリーサポート
福 祉	篠山市身体障害者福祉協議会、丹波市身体障害者福祉協議会
医 療	医療を守る丹波会議、篠山市医師会、丹波市医師会
多文化共生	NPO法人篠山国際理解センター、丹波市国際交流協会
消 費 者	丹波消費者団体連絡協議会

丹波の森夢会議の概要

1 平成 21 年度 丹波の森夢会議

(1) 日 時：平成 22 年 2 月 7 日(日) 13:15~16:00

(2) 場 所：県立丹波の森公苑(丹波市柏原町)

(3) テーマ：「今、丹波のもり・ひと・まちが楽しい」

(4) 参加人数：130 名

* 主な参加者：住民、ビジョン委員・委員OB、専門委員、大学生・高校生(神戸大学、関西大学、関西学院大学、園田学園女子大学、篠山産業高校、氷上西高校)、篠山市、丹波市、兵庫県企画県民部、丹波県民局

(5) 主な意見

【丹波のことは自分たちで決める仕組み】

- ・地域の伝統ある良いものは残し、良くないものは改良して残していくことが地域のコミュニケーションを高めることに繋がる。
- ・若い世代は、個々の意識は強いが、町の中で一緒に暮らすという感覚が欠けている。どうすれば町で楽しく過ごせるのか、考えていきたい。
- ・ビジョン委員の活動を広めるためには、子どもたちに活動に参加してもらうことも大切で、そこから親の世代にも広げていくことができる。

【都会に近い田舎】

- ・丹波地域のPRには、外からの視線が大事なのは。地元では当たり前のことと考えられていて、良さをアピールしきれていないことがある。
- ・価値観というのは自分の体験から作り上げられる。子どもたちも、都会から来た人も、体験してもらうことが丹波地域を理解することに繋がる。
- ・自分たちの住んでいる町に無関心であることが多いが、もう一度見つめ直して欲しい。町の良さ、地域の方々のやさしさに気付くことができる。

【多世代が支え合う豊かなコミュニティ】

- ・ビジョン委員もお手伝いしてきた「いきいきサロン」の取組が順調にしているところでは、お年寄りが子どもを連れて参加されるところもあり、子どもたちにお年寄りを思いやる心が大きく育ってきた。
- ・子どもの頃から継続的に地域の行事に参加していくことが大事。大人のほうからも、夏休みのラジオ体操に参加するなど、子どもに近づいていったらよい。
- ・移住されてきた方に対して、ボランティア等に関する情報を伝える仕組みが必要。

【幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動】

- ・丹波地域の特産物をいかにPRしていくかが課題。丹波ファンを増やすことで、夢のある産業として農業を発展させたい。
- ・鹿肉の知名度がまだ低いので、どのようにPRしていったらよいか、考えたい。
- ・高校で丹波の「赤じゃが」を新しい特産物にしようという取組に携わり、自分たち自身が地域のために役立てたという実感が持てた。

【無意識のうちにつくられているバリアがない地域】

- ・障害のある人自らが自分の障害について話せる地域にしたい。
- ・外国人を一住民と認め、やさしい日本語と笑顔でコミュニケーションをとっていく。
- ・どんな時も「優しさ」を一番に考え、議論を進めていく地域でありたい。

2 平成 22 年度 第 1 回丹波の森夢会議

(1) 日 時：平成 22 年 7 月 31 日(土) 13:00~16:00

(2) 場 所：篠山市民センター(篠山市黒岡)

(3) テーマ：「みんなで語ろう ~たんばの未来~」

(4) 参加人数：100 名

* 主な参加者：住民、ビジョン委員・委員OB、専門委員、篠山市、丹波市、兵庫県企画県民部、丹波県民局

(5) 主な意見

【みんなで創る“自立のたんば”】

- ・若い人が地域の行事に参加し、自主性が芽生えてきている。丹波地域は広い割にまとまった地域であることを、外部から見てもらえれば良い。
- ・世代を問わず、地域のみんがが地域づくりについて提案できる仕組みが必要。
- ・空き家を地域で管理することを通して、地域での交流を。

【都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”】

- ・保守的な地盤や少し排他的な体質もあると思う。都市からの住民を受け入れる体制が、まだ成熟していないのでは。
- ・地域芸能等を発信することで、都会の人に丹波地域へ来てもらったら良い。
- ・人工林の維持管理については、林業としてだけでなく、住民としての関わりの中でやっていければよい。

【やりがいを実感できる“元気なたんば”】

- ・農業の方向としては、安全性を高めることと、ブランド化ではないか。
- ・安全性を追求すると同時に、営みとして継続できる農業の確立を。
- ・集落営農では高齢者に頼りがちだが、地域の若い人の力が必要。

【多世代が支え合う“絆のたんば”】

- ・高齢者のふれあいサロン・いきいきサロンで、子どもたちが参加して、活発に活動されているところもある。そういう取組を地域で広げていければ。
- ・地域の子どもが泊まりがけで共同生活を行う「通学合宿」の取組を広めていければ良い。
- ・高齢者の交通手段確保について、地域内での身近なサービスができれば。例えば、団塊世代の方が世話をして、近所の高齢者を送迎するサービスなど。

【ともに暮らす“安全安心なたんば”】

- ・心の面でのバリアフリーは進んできたと思うが、公共施設等のバリアフリーはまだ進んでいない。
- ・自治会等での女性の役割は多いが、意思決定などではまだ男性主導ではないか。
- ・在住外国人向けの多言語による情報提供が不足している。



3 平成 22 年度 第 2 回丹波の森夢会議

(1) 日 時：平成 23 年 2 月 5 日(土) 13:15~16:00

(2) 場 所：県立丹波の森公苑(丹波市柏原町)

(3) テーマ：「みんなで語ろう ~たんばの^{いま}現在・^{みらい}未来~」

(4) 参加人数：140 名

*主な参加者：住民、ビジョン委員・委員OB、専門委員、高校生(篠山鳳鳴高校、篠山産業高校、篠山産業高校丹南校、篠山産業高校東雲校、柏原高校、氷上西高校、氷上高校)、篠山市、丹波市、兵庫県企画県民部、丹波県民局

(5) 主な意見

【みんなで創る“自立のたんば”】

- ・離れてみて初めて、丹波地域の良さがわかるということもある。むしろ、「若者は出て行って修業してこい。」と送り出してはどうか。ただ、その後、帰ってきたい地域にしたい。
- ・例えば高齢者タウンを設置し、高齢化を利点にして元気に働ける地域を目指してはどうか。
- ・特産品を全国的に広めるために、B-1 グランプリという、ご当地の食文化を紹介しあうイベントに参加してはどうか。

【都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”】

- ・福知山線の駅の活性化を。駅の中で野菜などを売ったら、都会から買いに来てくれないだろうか。
- ・自然を活用した体験がなく、親世代でも、森、川、里の良さをまだまだ知らない。
- ・我々がもっと地域を知り、地域に密着した生活を送ることが大事。日常の生活の中にも、地域の良さがあるのでは。
- ・丹波地域のワイン、野菜、元気な高齢者などは都会を超えて、世界へ発信できるのでは。世界に誇る丹波地域、といえるビジョンを。

【やりがいを実感できる“元気なたんば”】

- ・有害鳥獣の駆除について、鹿肉の活用等、野生動物をおいしく食べる食文化を推進すればどうか。
- ・価値ある人を正当に評価して表彰するシステムがあれば、消極的な人も積極的になれるのでは。
- ・若手でいわゆる「イケメン」の農業家を活用し、新規就農をPRすればどうか。
- ・食や芸術を通しての地域博覧会を開催して、丹波地域をもっとPRしてはどうか。

【多世代が支え合う“絆のたんば”】

- ・大家族で暮らすことには、高齢者にとっては家庭内で交通手段を確保でき、若い世代にとっては安心感が出るというメリットがある。
- ・多世代で暮らすには、近所づきあいを良くし、問題があっても近所同士で助け合うことが大事。
- ・高齢者が多いことを生かして、昔ながらの知恵を活かしたり地域の昔話などを聞く機会を作ってはどうか。

【ともに暮らす“安全安心なたんば”】

- ・小さなボランティア運動を。例えば、これまでボランティアを受ける側だとされていた障害のある人、高齢者、外国人もボランティアが出来るのではないか。
- ・自治防災をテーマに自治会を活性化して、災害に強い地域づくりを目指す。
- ・若返りと女性の参画により、自治会など地縁関係の活力を取り戻す。

4 平成 23 年度 第 1 回丹波の森夢会議

(1) 日 時：平成 23 年 7 月 24 日(日) 13:00~16:00

(2) 場 所：篠山市民センター(篠山市黒岡)

(3) テーマ：「みんなで語ろう ~兵庫の未来・たんばの未来~」

(4) 参加人数：140 名

*主な参加者：住民、ビジョン委員・委員OB、専門委員、篠山市、丹波市、
兵庫県企画県民部、丹波県民局

(5) 主な意見

【みんなで創る“自立のたんば”】

- ・コミュニティづくり、場づくりが重要である。
- ・地域でまちづくりに取り組んでいるのは高齢者が中心であるが、若い世代も一緒に地域を盛り上げていくべき。
- ・地域資源の再発掘・活用と、本業・副業の2つの場所づくりが重要だ。
- ・余った野菜を加工してパンにし、給食に活用したり道の駅で販売する。農家民宿の充実、音楽会・歌声喫茶、歴史的遺産を見直す、住民主体で移動するスーパーマーケットをする。

【都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”】

- ・都会の人と一緒に里山体験をしたり、空き地・空き家の活用を考える。
- ・ソバの種を植えてから収穫・粉にして食べるまでの体験がいいと思う。
- ・地域のなかでリーダーはいるが、後ろを押してくれるサブリーダーや仲間が少ない。
- ・交流にあたり、地域の人向けの情報発信をして、地域の人が地域の資源を再発見する。
- ・森林の様々な活用策を考え、資源としての森林を整備する。
- ・地域ビジネス、ソーシャルビジネスとして、新しい力が入る仕組みを考えたり、地域の担い手を作り出していく。

【やりがいを実感できる“元気なたんば”】

- ・丹波ブランド商材の質を上げ、その商材を使って商品開発するなど、6次産業化を地域全体で考える。
- ・空き店舗を利用して丹波名産の販売をする店など、お土産屋兼地産地消の流れをつくる。
- ・バイオマスや製材業など森林を活用した業を営める環境づくりをする。
- ・自然環境だけでなく、田舎の文化や風習・祭りもツーリズムの資源としてなりうる。
- ・若者が定着できる企業誘致と丹波地域の資源を利用して自ら起業できる環境づくりを促す。

【多世代が支え合う“絆のたんば”】

- ・高齢者のノウハウを使う拠点としての高齢者の居場所をつくる。
- ・ラジオ体操など子どもの行事に高齢者が参加したり、高齢者が託児所を運営する。
- ・月に1回、「イクメンの日」を設け、若いお父さんが育児をするために集まる。
- ・コミュニティの再生がなければ、子育てや安心して暮らせる地域づくり、高齢者が活躍できる地域づくりができない。コミュニティがあって初めて他のことができる。
- ・高齢者は65歳からといわれているが、70歳はまだ若者で現役だ。各種団体の接着剤になり団体間の交流を深めることで、知識を得たり情報を知ることができる。

【ともに暮らす“安全安心なたんば”】

- ・安心・安全に暮らすためには、緊急時の対策が必要。防災訓練により隣近所とのコミュニケーションを図り、地域とのつながりをつくっていく。
- ・個人にできること、行政に頼ることなく自分たちでやれることは何かを考えることが必要。

丹波地域ビジョンの見直しに係るアンケート調査結果

ビジョン委員・委員OB等を対象に、ビジョンの実現状況、地域の将来像、将来像実現に向けた提案・取組方策等についてのアンケート調査を実施した。

1 調査実施方法

調査対象 第5期ビジョン委員、委員OB、元丹波の森夢21委員 406名
 調査期間 平成22年6月16日～7月2日
 調査方法 郵送による配布・回収

2 回収状況

第5期ビジョン委員	ビジョン委員OB	元丹波の森夢21委員	その他・未記入	回答数合計
42	92	4	4	142 / 406
29.6%	64.8%	2.8%	2.8%	回答率 35.0%

【回答者について】

性別

男性	女性	未記入
88	51	3
62.0%	35.9%	2.1%

住所

篠山市	丹波市	その他・未記入
49	86	7
34.5%	60.6%	4.9%

年齢

20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	未記入
3	5	10	15	50	45	9	5
2.1%	3.5%	7.0%	10.6%	35.2%	31.7%	6.3%	3.5%

3 調査結果

【社会に対する評価・ビジョンの課題について】

問1：地域の暮らしは10年前と比べて全体として良くなっていると思いますか。

よくなっている	どちらかといえば思う	少し悪くなった	悪くなった	わからない
17	61	30	17	13
12.3%	44.2%	21.7%	12.3%	9.4%

問2：今住んでいるところにこれからも住み続けたいですか。

住み続けたい	住み続けてもいいと思う	できれば引越したい	できるだけ早く引越したい	わからない
85	45	9	0	1
60.7%	32.1%	6.4%	0.0%	0.7%

問3：住んでいる地域に誇りや愛着を感じていますか。

強く感じる	どちらかといえば感じる	あまり感じない	全く感じない	わからない
63	56	20	0	1
45.0%	40.0%	14.3%	0.0%	0.7%

問4：地域の行事によく参加しますか。

参加する	時々参加する	ほとんど参加 したことがない	参加しない	わからない
89	47	4	1	0
63.1%	33.3%	2.8%	0.7%	0.0%

問5：今住んでいる地域は「若者が希望を持てる地域」だと思いますか。

思う	どちらかといえば思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
7	25	94	11	4
5.0%	17.7%	66.7%	7.8%	2.8%

問6：次の項目に関連して、現在、十分に進んでいないと感じる項目、今、重要だと思う項目、将来（5～10年先）に重要と思う項目を選択して下さい。

項目	不十分	今、重要	将来、重要
1 安心して十分な医療を受けられること	47	79	32
2 高齢者がいきいきと生活し、必要な介護が受けられること	22	63	43
3 障害のある人が自立し、安心して暮らせること	52	30	21
4 女性が地域や職場で活躍すること	32	31	26
5 芸術、文化やスポーツを楽しむ機会や施設が十分にあること	19	16	35
6 安心して子どもを産み、育てやすいこと	32	63	32
7 子どもの学力や心と体の成長が十分に促される環境にあること	20	49	30
8 防犯や交通安全が十分に保たれていること	19	31	22
9 地震や風水害などの災害に対する備えが十分に整っていること	40	27	18
10 地域に雇用の場が確保されていること	69	57	17
11 商店街などまちに賑わいがあること	50	28	19
12 内外から多くの観光客が訪れる魅力ある地域が整備されていること	28	23	31
13 公共交通機関が便利で利用しやすいこと	65	20	27

14 便利に移動できるように道路が整備されていること	10	19	21
15 自然が豊かで美しいこと	4	33	38
16 まちの景観や風景が美しいこと	5	25	25
17 地震や風水害等に対する防災対策が整っていること	25	33	21
18 安全安心な食べ物が確保されていること	9	40	26
19 海外との交流や協力がさかんにおこなわれていること	13	10	23
20 中小企業の活性化が進んでいること	41	34	17
21 いつでも関心のあることの学びの機会や場があること	15	25	20
22 経済活動が活発に行われ、産業に活力があること	51	44	25

【現行の丹波地域ビジョンについて】

問7：現行の丹波地域ビジョンについて、変更すべき点や追加すべき点がありますか。

今のままでよい	変更・追加すべき	その他
92	24	9
73.6%	19.2%	7.2%

【丹波地域ビジョンで描いた5つの将来像の実現状況等について】

問8：将来像の実現状況について、将来像ごとに該当すると思われる実現状況を選んでください。

区分・項目		実現している	どちらかといえば実現	あまり実現していない	全く実現していない	わからない
将来像1	参画と協働による地域づくり	4 (3.2%)	49 (39.5%)	61 (49.2%)	6 (4.8%)	4 (3.2%)
	地域を担う人材育成	3 (2.4%)	38 (30.2%)	67 (53.2%)	12 (9.5%)	6 (4.8%)
将来像2	自然・景観の保全と活用	5 (4.0%)	54 (43.5%)	49 (39.5%)	12 (9.7%)	4 (3.2%)
	交流による活性化	5 (4.1%)	50 (40.7%)	52 (42.3%)	10 (8.1%)	6 (4.9%)
将来像3	コミュニティの再生	5 (4.0%)	59 (47.2%)	52 (41.6%)	4 (3.2%)	5 (4.0%)
	高齢者の地域参加	12 (9.5%)	55 (43.7%)	44 (34.9%)	8 (6.3%)	7 (5.6%)

将来 像 4	地域産業の活性化	1 (0.8%)	23 (18.9%)	73 (59.8%)	20 (16.4%)	5 (4.1%)
	多様な働き方、多様な仕事 の創出	3 (2.4%)	14 (11.3%)	78 (62.9%)	21 (16.9%)	8 (6.5%)
将来 像 5	誰もが安心して暮らせる 地域社会	2 (1.6%)	29 (23.4%)	64 (51.6%)	21 (16.9%)	8 (6.5%)

たんば夢フォーラムの概要

(1) 開催目的

望ましい社会像やこれからの地域づくりについて、丹波地域の活動団体と意見交換を行い、「21世紀兵庫長期ビジョン」(「全県ビジョン」と「地域ビジョン」)の見直し・点検に反映する。

(2) 開催日時

平成 22 年 12 月 9 日(木) 13:30~15:00

(3) 開催場所

丹波市立柏原公民館(丹波市柏原町)

(4) 開催内容

プレゼンテーション

- ・ 21 世紀兵庫長期ビジョンのフォローアップについて
- ・ 丹波地域ビジョン改訂版(素案)について

意見交換(進行:横山宜致丹波地域ビジョン委員会専門委員)

(5) 出席者

地域活動団体(21 団体)

篠山市自治会長会、丹波市自治会長会、NPO 法人ほっと丹波、NPO 法人情報社会生活研究所、篠山青年会議所、丹波青年会議所、丹波市森林組合、NPO 法人サウンドウッズ、篠山自然の会、丹波自然友の会、NPO 法人バイオマスフォーラムたんば、篠山市社会福祉協議会、丹波市社会福祉協議会、篠山市商工会、丹波市商工会、丹波市観光協会、丹波文化団体協議会、NPO 法人篠山国際理解センター、医療を守る丹波会議、丹波市連合婦人会、丹波消費者団体連絡協議会

丹波地域ビジョン委員会

青木芳信委員長、中道知代子副委員長、横山宜致専門委員

行政関係

篠山市、兵庫県企画県民部、丹波県民局

(6) 主な提案・意見

- ・ 自然環境の保全について子ども・若者への意識啓発が重要。太陽エネルギーなどの自然エネルギーについて勉強の機会を提供していく必要がある。
- ・ もみじを植えて地域を美化する「マイもみじ」を地域へ提案している。
- ・ 景観美化のため、集落ごとに花を植えいつでも地域のどこかの集落で花が咲いているようにすればどうか。
- ・ 取組提案等で「子どもたち」と出てくるが、どの地域にも子どもがいるわけではないので、表現を工夫する必要があるのではないか。
- ・ 70 歳以上の一人暮らしの方を食事に招く「すこやか会」を社協でやっている。バスの配車をする等、参加しやすいようにしているが、参加が少ない地域もあり、良さが理解されていないのではと思う。いかに地域での生きがい、楽しみを作るかが重要である。
- ・ 日置のまちづくり協議会では、交流拠点の中立舎を持っているが、行きたくても交通

手段がないという問題がある。

- ・ 一人暮らしの老人を週1回でも一緒に食事するなど、地域の取組が必要。
- ・ 公共施設や商業施設でのユニバーサル化調査では、外国語による表示があるかどうかも含める必要がある。
- ・ 暮らしの中で消費者被害を防ぐことが大切である。高齢者の被害の増加が見られるので、インターネット関連のトラブルでは、IT関係のNPOとの連携を。
- ・ 都市部の若者には、農業やものづくりに興味を持つ者もいる。若者の移住を推進するため、「有機農業の郷」「ものづくりの郷」として情報発信してはどうか。
- ・ 自然あふれる丹波地域は健康の面からも優れた地域であり、健康・福祉・介護の取組を情報発信し、移住人口の増加を進めてはどうか。
- ・ 山の恵みを活かしていく視点から「林業の振興」もいれてほしい。
- ・ 丹波地域に多くある針葉樹（スギ、ヒノキ）を森林ビジネスに活用して、学校の生徒机の木製化を推進してはどうか。
- ・ 新規就農者が増えているが、問題は農地がないことで近くにまとまった農地が必要である。
- ・ 地元の消費者、料理屋が地元の食材を使っていない。学校給食や病院でも経費のかかる地元の食材が使われていない。
- ・ 農業の振興や地産地消の推進には、子どもの頃からの農に触れる取組や食農教育が重要である。
- ・ 安全・安心な地域づくりに「住民の健康づくりや疾病予防」の取組を記載してはどうか。

丹波地域ビジョン検討委員会名簿・検討経過

1 設置目的

丹波地域ビジョン策定からの時代潮流（解決すべき課題等）の変化等を踏まえながら、ビジョンの点検・見直しを行い、将来像や地域づくりの方向性等について検討を行う。

2 設置日

平成21年12月8日

3 委員名簿（五十音順）

氏名	備考
青木 芳信	第5期委員長
足立 栄逸	第2期委員長
井関 裕子	第5期副委員長
上田 信也	第5期副委員長
君塚 昌俊	第4期副委員長
小橋 昭彦	第5期専門委員
中川 政和	第2期副委員長
中瀬 勲	丹波の森公苑長、丹波の森構想評価・検証委員長
中道 知代子	第5期副委員長
西尾 昭	第1期委員長
能口 秀一	丹波市総合計画審議会委員
森本 くるみ	第3期委員長
山崎 和加子	第4期委員長
山本 茂	(財)兵庫丹波の森協会主任専門研究員
横山 宜致	第5期専門委員

4 開催状況

(1) 第1回

日時：平成21年12月8日（火） 16:00～18:00
場所：兵庫県柏原総合庁舎内 柏原職員福利センター

(2) 第2回

日時：平成22年2月19日（金） 15:30～18:00
場所：兵庫県柏原総合庁舎内 柏原職員福利センター

(3) 第3回

日時：平成22年6月3日（木） 15:30～17:30
場所：兵庫県柏原総合庁舎内 柏原職員福利センター

(4) 第 4 回

日 時：平成 22 年 10 月 18 日 (木) 10 : 00 ~ 12 : 00

場 所：兵庫県柏原総合庁舎内 柏原職員福利センター

(5) 第 5 回

日 時：平成 22 年 12 月 22 日 (水) 10 : 00 ~ 12 : 00

場 所：兵庫県柏原総合庁舎内 柏原職員福利センター



丹波の森宣言、丹波の森構想、丹波の森構想評価・検証報告

丹波の森宣言 昭和 63 年 9 月 1 日

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。

今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森」づくりを次のように進めることを宣言します。

- 1 丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。
- 2 丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。
- 3 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。
- 4 丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

丹波の森構想 平成元年 3 月

丹波地域の美しい自然、暮らし、なりわい、人々の交流、生活空間、生活文化など住民を取り巻くすべての環境を「丹波の森」と位置づけ、丹波の森宣言で示された丹波の森づくり(地域づくり)の理念を具体化するため、住民や活動団体、行政等が一体となって、人と自然と文化の調和した地域づくりを推進していくための取組指針として策定されました。

《3つの基本理念》

自然と共に生きる地域社会の実現

全地球的視点に立って自然界のルールを正しく理解し、人間も自然界の一員であることを認識して、自然とともに生きる地域社会の実現をめざします。

潤いと安らぎのある地域社会実現

素晴らしいふるさとと景観をかけがえのない共有財産とする共通認識に立って、環境や景観の保全と創出を図り、潤いと安らぎのある地域社会の実現をめざします。

活力ある開かれた地域社会の実現

地域風土を生かし、森の文化の十字路口として、新しい丹波地域の文化を創造し、交流や地域特性を生かした産業の振興を図り、活力ある開かれた地域社会の実現をめざします。

丹波の森構想評価・検証報告 平成 21 年 3 月

丹波の森構想評価・検証委員会は、丹波の森構想の継承・発展を目指した新たな展開として 9 つの提言を提案しています。

環境と経済が結びつくための仕組みづくり

恐竜・哺乳類化石などを活かした環境学習の拠点

安心・安全実現のためのコミュニティづくり

丹波の森エコミュージアム群の形成

丹波らしい景観の継承と創造

空き空間の戦略的活用

「丹波ブランド」の継承と創造

「食と農の産業クラスター」形成と、そのための「コア機能」の確立

地域連携による都市との交流と担い手の育成

成長しつづける丹波の夢ビジョン改訂版
みんなで丹波の森
平成 23 年 10 月

丹波地域ビジョン委員会
兵庫県丹波県民局

事務局：兵庫県丹波県民局県民室ビジョン課
〒669-3309

兵庫県丹波市柏原町柏原688 兵庫県柏原総合庁舎内

電話：(0795)72-0500(代表)

FAX：(0795)72-3013